

Title	ビッグ・サイエンスの成功と蹉跎
Author(s)	伏見, 康治
Citation	年次学術大会講演要旨集, 4: 6
Issue Date	1989-10-10
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5233
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	特別講演

伏見 康治 元日本学術会議会長

原子力船「むつ」の計画としての失敗は誰の眼にも明らかであるが、日本の官僚機構の中では失敗は決して起こらないことになっている。米国ではもっと簡単に失敗を認める様である。またその経過が kongress の公開討論の記事の中に、その他の公文書の中に、良く記述されているので、ビッグサイエンスの興亡を客観的に後付けることができる。それで、いくつかの事例について、計画がどうして立ち往生するようになったかを跡付けてみたい。「Mohole計画がどうしてNohole計画になったか」、「Aladdineの灯は消えたか」、「Astironの運命」、「Stellaratorはなぜ捨てられた?」、等々。